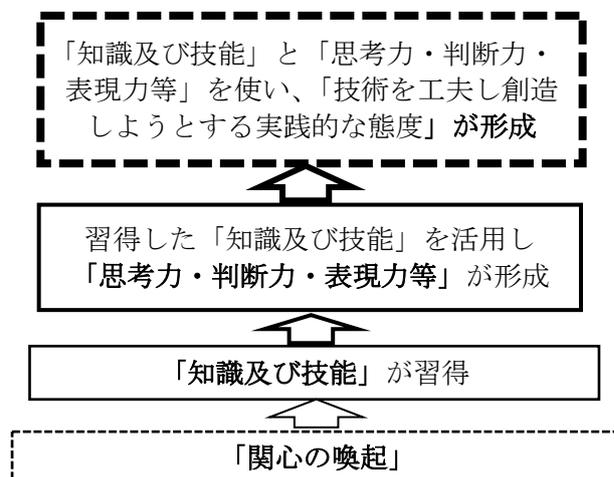


<405> 観点別学習状況「評価の3観点」で学習評価するコツは？

観点「知識・技能」「思考力・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の関係が、「C・C・A」があり得ないことから、観点別で学習評価するコツを示してみたいと思います。

「技術を工夫し創造しようとする実践的な態度」の学力は、右のように「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の積み重ねで形成される学力構造になっています。従って、観点別学習状況の評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」は、他の2観点の学習成果上に成立しますので、3観点の学力構造から考えると、通常では「C・C・A」はあり得ません。



しかし、例えば導入題材の評価で、本題材で主体的に問題解決していくために必要な「思考力・判断力・表現力等」と「知識及び技能」に重きを置いた場合は、導入題材に2つの学力がなくとも、「実践していこうとする態度」のみでの観点別評価「C・C・A」はあり得ます。

参考資料1：導入題材と本題材とで「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価する対象の使い分けの例

導入題材 → 本題材に取り組む観点「主体的に学習に取り組む態度」に主に設定
本題材 → 学習成果を社会の実生活でどう活用していこうとするかの視点で、「主体的に学習に取り組む態度」に設定すると、「C・C・A」は、考えられないが、導入題材では、先に述べたように「C・C・A」が考えられるのではないのでしょうか？（「C・C・B」となる場合もあると考えられる。）

参考資料2：導入題材の指導計画における位置付けの例

- 「本題材」を主体的に問題解決に取り組むための基礎体験を得るため
 - 「本題材」の設計を生徒個々が主体的にできるようにするため
 - 「本題材」での作品の完成度を高めるため
 - 「本題材」で主体的に学ぶための学習活動の概要を体験から知るため
- 導入題材での学習評価を考える前に、「学習のねらい」をしっかりと押さえる必要があるのではないのでしょうか？